

令和 6 年 6 月 10 日現在

機関番号：16401

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K12919

研究課題名（和文）『祐子内親王家紀伊集』を中心とした摂関末期・院政前期の人的交流の研究

研究課題名（英文）Research on human interactions centered on YushinaishinnouKiishu during the late regent period and early cloistered government period

研究代表者

大塚 誠也 (Otsuka, Seiya)

高知大学・教育研究部人文社会科学系人文社会科学部門・准教授

研究者番号：90838161

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,000,000円

研究成果の概要（和文）：平安時代の女性歌人・祐子内親王家紀伊を中心として、摂関期から院政期へ移行する時代の文芸活動を究明した。紀伊については、親族や文芸の交友圏について、旧説の誤りや見落としを指摘しつつ、母子二代の歌人、琵琶弾き等の新見を提示した。
また紀伊周辺の文芸活動について成果をあげた。同所属侍女・菅原孝標女が、『更級日記』で私家集の表現内容を多く摂取していたことなどを指摘した。他に下野や橘為仲といった同時代の歌人が『万葉集』や漢詩の表現を用いて交流していたことを指摘した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

平安文学研究において摂関期と院政期は個別に研究されがちであったが、紀伊という存在を端緒としてその移行や継承の様相が明らかになった。従来論文数が少なかった歌人や私家集にフォーカスあたり、交流の具体相が明らかになったことも同様に意義深い。

また紀伊は『小倉百人一首』72番の歌人である。紀伊に関する基礎的な伝記研究の成果は、一般社会の教育活動や文化活動にも有益な効果をもたらすものである。

研究成果の概要（英文）：Focusing on the Heian period female poet, YushinaishinnoukeKii, this research revealed literary activity during the transition from the late regent period to the early cloistered government period. With regard to Kii's family and literary circle, errors and oversights in the old theory were pointed out, and new insights into two generations, and biwa were presented. Literary activity around Kii was revealed too. It clarified that SugawaranoTakasuenu Musume, a nyobo of Kii's colleague, incorporated many expressions from personal song collections in Sarashina Diary. It was shown that other contemporary poets, Shimotsuke and TachibananoTamenaka interacted using expressions from the Manyoshu and Chinese poetry.

研究分野：日本文学

キーワード：平安時代文学 和歌 私家集 歌人研究

様式 C-19、F-19-1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

紀伊は平安時代、摂関末期と院政前期にまたがって活動した女流歌人である。紀伊は後世『小倉百人一首』にも選ばれ、私家集『祐子内親王家紀伊集』も現存している。紀伊はまとまった詠作や活動の記録が残っており、かつ摂関家や院政期歌壇とも密接に関わる歌人である。

しかし、紀伊は摂関期と院政期、いずれの研究史においても論考が不十分である。摂関期と院政期の文学研究は十全な接続がなされていない上に、紀伊はそれにもまして等閑視される存在であった。

2. 研究の目的

紀伊の研究の欠如と、それによる文芸史研究の損失を踏まえ、以下の究明を目的とした。

I 『祐子内親王家紀伊集』に載る詠作や文芸活動はいかなる特徴を持つか？

II 紀伊の人的交流と同時代における立場はいかなるものか？

III 摂関末期と院政前期の文芸史はいかにつながるか？

I 『紀伊集』が、紀伊の詠作や活動を最も多く伝える作品であることは言うまでもない。さらにII一介の女房紀伊が、歌壇や政治の中枢にいる貴頭に対し、いかなる立場にあったのか、他資料も併せて人的交流と文芸活動が究明されねばならない。それらは、政治体制の変遷を前提として論じられるIII摂関末期と院政前期の和歌活動に対する、再検討へとつながる。

3. 研究の方法

上記の目的I～IIIについて、下記の研究方法を取った。

I 『祐子内親王家紀伊集』に載る詠作や文芸活動はいかなる特徴を持つか？

全国に存在する『紀伊集』の伝本を調査し、校訂した。伝本は13機関のうち、訪書不可能であった1機関を除き影印データを収集した。各伝本の書入れ等の情報まで網羅的に収集した。

『紀伊集』の内容的な調査検討も行った。詞書中に登場する不詳人物を他資料類を用いて調査したり、各歌の詠歌年次や状況を同じく他資料類から調査した。また注釈の刊行に向けて詞書・和歌の通釈作業も行った。

II 紀伊の人的交流と同時代における立場はいかなるものか？

『紀伊集』や他資料に見える紀伊の交流関係を調査し、その特徴を分析した。従来は艶書合のような公的イベントへの参加が認知されていたが、親族関係の再調査や楽器演奏に関わる新たな人間関係の調査を行った。調査においては歴史史料系のデータベースや中世の故実書まで対象範囲に含めた。

特に資料類が比較的豊富な母小弁の問題を精査した。摂関家や祐子内親王家という主家筋との関わりや当時の和歌活動集団との関わりという状況において、紀伊がいかなる存在として位置づけられていたかを分析し考察した。小弁は紀伊と同じく祐子家女房であった点が大きかったが、家集が散逸しているため後世の選集や歌論書からデータを収集し総合的な考察を行った。

III 摂関末期と院政前期の文芸史はいかにつながるか？

摂関末期と院政前期のつながりを政治的、文芸的に再検討した。

史的な時系列で示せば、まず摂関末期において『更級日記』を著した菅原孝標女が先行する私家集をいかに摂取したか、次代の院政期で活動する息子橘仲俊を日記中でいかに描写したかを調査し分析した。私家集に関しては先行作品を広く対象とし、語句や表現の一致以外にもファジーな摂取の痕跡がないか調査した。橘仲俊については史料類がほぼ存在しないため、日記に見られる同世代の甥・姪等の表現方法との比較検討を主とした。

他に摂関末期の歌人・四条宮下野と摂関～院政期の歌人・橘為仲を他歌人より優先的に研究した。下野は共同研究において家集の注釈を行ない、摂関期の終わりを象徴する後冷泉天皇崩御前後の歌群を精査した。また下野と為仲は親交を結んでいたが、摂関から院政期にまたがる交友関係を調査した。さらに為仲は二つの家集を遺した歌人だが、その摂関期の家集と院政期の家集でいかなる差異があるか、作品の読者意識等を中心に調査した。

院政期においては施政者である藤原師実と白河上皇が管絃の場をいかに差配したかという問題も史料を中心に調査した。

4. 研究成果

以下、現時点での刊行物ごとに成果を述べる。

- 大塚誠也「祐子内親王家紀伊略伝の再考—寛子春秋歌合・平経方・藤原重経（素意法師）—」
『古代中世文学論考』48 128-155 2022年10月
……紀伊の親族関係について調査を行ない、結果と考察を発表した。紀伊の初出仕時期は寛子春秋歌合の記録にみえる女房「紀伊」が参照されていたが、主催や女房呼称の時期的に無理があることを指摘した。また『勅撰作者部類』等に伝わる平経方父説は先行研究において疑問視されてきたが、史料の再調査・再整理を行なった結果疑問視は妥当でないという結論に至った。藤原重経は『勅撰作者部類』で紀伊兄とも夫とも伝わるが、紀伊が祖父の養子になり血縁上の叔父重経と婚姻していればそれらの錯綜は解消されると指摘した。

- 大塚誠也「『更級日記』上洛の記における『深養父集』『公任集』の利用」『むらさき』58 46-55 2021年12月
- 大塚誠也「『更級日記』における『紫式部集』のモチーフの利用—姉妹と離別・初出仕と里下がり—」『日記文学研究誌』24 12-25 2022年7月
……『更級日記』において先行する私家集がいかに関与されたか解明した。具体的な事例として『深養父集』の富士山の描写、『公任集』の海辺の松原の描写を指摘し、上洛の記が実は先行する私家集をも参照して書かれたものであったことを提唱した。また『更級日記』は姉との死別や初出仕といった記録が印象的な作品だが、それらは『紫式部集』の類似の事例から影響を受けたものなのではないかと提唱した。

- 大塚誠也「『四条宮下野集』からわかる男性貴族の文芸嗜好—橘為仲の「横山」と源隆綱の「春は水」—」『鳳翔学叢』19 71-81 2023年5月
……『下野集』に見える「横山」の和歌は、懇意であった為仲が後年東国赴任した際に武蔵国「横山」を実見した記録と関わるのではないかと和歌交友の様相を指摘した。また源隆綱が後冷泉天皇御前で即詠した「春は水」の和歌は、漢詩を踏まえた表現なのではないかとその好尚を指摘した。

- 大塚誠也「『為仲集』乙本における待遇意識・日付・寛子後宮」『日本文学研究ジャーナル』22 85-96 2022年6月
……『為仲集』は甲本（第一種本）・乙本（第二種本）の二作品がある。そのうち乙本のみに見える文体や記録スタイルとして、「侍り」多用の待遇意識や正確な日付の記載、宮司として仕えた寛子後宮の存在感を指摘し、そこに帰属意識が読み取れるのではないかと主張した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 大塚誠也	4. 巻 24
2. 論文標題 『更級日記』における『紫式部集』のモチーフの利用 姉妹と離別・初出仕と里下がり	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日記文学研究誌	6. 最初と最後の頁 12-25
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大塚誠也	4. 巻 19
2. 論文標題 『四条宮下野集』からわかる男性貴族の文芸嗜好 橘為仲の「横山」と源隆綱の「春是水」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 鳳翔学叢	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大塚誠也	4. 巻 58
2. 論文標題 『更級日記』上洛の記における『深養父集』『公任集』の利用	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 むらさき	6. 最初と最後の頁 46-55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大塚誠也	4. 巻 22
2. 論文標題 『為仲集』乙本における待遇意識・日付・寛子後宮	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大塚誠也	4. 巻 47
2. 論文標題 祐子内親王家紀伊略伝の再考 寛子春秋歌合・平経方・藤原重経（素意法師）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 古代中世文学論考	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 和田律子, 横溝博, 高橋由記, 中村成里, 有馬義貴, 大塚誠也	4. 巻 18
2. 論文標題 『四条宮下野集』研究（十一）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 鳳翔学叢	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 和田律子・横溝博・高橋由記・中村成里・有馬義貴・大塚誠也	4. 巻 17
2. 論文標題 『四条宮下野集』研究（十）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 鳳翔学叢	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大塚誠也	4. 巻 20
2. 論文標題 祐子内親王家の女房小弁・紀伊と藤原頼通 母子二代の高名	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 鳳翔学叢	6. 最初と最後の頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 大塚誠也
2. 発表標題 『更級日記』後冷泉朝記事の再考と橘仲俊
3. 学会等名 早稲田大学国文学会2022（令和4）年度秋季大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大塚誠也
2. 発表標題 『更級日記』に影響を与えた私家集の検討
3. 学会等名 日記文学会第七九回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大塚誠也
2. 発表標題 祐子内親王家紀伊の琵琶の才ならびに歌の家意識
3. 学会等名 中古文学会2021年度秋季大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大塚誠也
2. 発表標題 『狭衣物語』飛鳥井女君の「唐泊」の修辞法 同時代の「かばね島」を補助線にしながら
3. 学会等名 第七二回高知大学国語国文学会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------